

評価委員会委員からいただいた主な意見

点検・評価の客観性を確保する観点から、岸和田市教育委員会評価委員会各委員から点検・評価に関して以下のご意見をいただきました。

頂きましたご意見に対しますシートの修正や考え方について、記載（朱書き）しております。

○教育総務部 総務課 他○

項目番号 10(点検・評価シート 1～2 頁) 教員の業務負担軽減に向けた取組の推進
特になし

○教育総務部 学校適正配置推進課○

項目番号 9 (3～4 頁) 小・中学校の適正規模・適正配置の推進
特になし

○教育総務部 学校給食課○

項目番号 6 (5～6 頁) 学校給食運営の充実
特になし

○教育総務部 学校管理課○

項目番号 8 (7～8 頁) 照明設備 L E D 化による教育環境の改善

◇ 6. 評価では、目標を下回るとなっており、その理由として進捗率が下回ったとある。

ここ 3 年そのような評価になっているが、これについては、人件費や人手不足、材料費高騰といった要因もあると考えられる。今の現状に合わせて改めて、この 7 % という目標設定値を見直す必要はないか。

⇒本市学校施設における工事において、人件費上昇や人手不足、材料費の高騰や材料不足による影響が皆無とは言えませんが、工事の先送りや遅れが出るまでには至っていません。学校施設長寿命化計画に基づく整備の実施率が目標を下回る要因は、整備の遅れではなく、実施率の算定方法に問題があることがわかりました。計画では、小中学校あわせて 184 棟を対象施設として、2021(令和3)年度から2035(令和17)年度までの計画期間に、施設ごとに改修する時期と方法を定めています。計画期間中に改修時期を迎える施設は111棟ですが、その中で優先順位の高い94棟を対象に整備を行うこととしています。点検評価に当たり184棟を母数に実施率を算定したため、計画との乖離が生じました。また、年目標となる実施率についても、計画では各棟の改修期間を5年区切りとし実施に幅を持たせており、単純に平準化して比較できるものではありませんでした。このことから、94棟を母数に実施率を算定し直し、目標値についても、5年区切りで設定し直します。

○教育総務部 産業高校学務課○

項目番号 3 (9～10 頁) 産業教育の充実
特になし

○学校教育部 学校教育課○

項目番号 1 (11～12 頁) 授業の改善・読書活動の充実

◇放課後学習支援事業に変わるものが「AI ドリル」であることと、「AI ドリル」についての説明がもう少しある方がいいのではないかな。

⇒全ての子どもたちの個別の課題や習熟の度合いに応じた学習ができる環境を整えるため、全児童生徒が活用できる AI ドリルを導入し、基礎的・基本的な知識技能の定着と家庭学習や自主学習習慣の定着を図ってまいります。AI ドリルは誤答の状況や定着度・理解度を AI が判断し、個に応じた問題を出題するものです。よって、AI ドリルは授業にとって代わるものではなく、あくまでも学習は教師による指導が中心であると考えます。また、AI ドリルは児童生徒の学びを補完・補充するものと捉えており、児童生徒一人ひとりの学習状況に応じて活用することで、予習・復習をしたり、つまづいているところからの学び直しなど、個に応じた学習環境づくりに資するものと考えております。今年は導入年度ということで、ステップ 1 としてまずは「触ってみる」期間、ステップ 2 として「部分的に使う」期間、ステップ 3 として日常的な活用へ取り入れる期間の 3 段階のステップを設定し、子どもたちが AI ドリルに慣れ活用することに重点を置き推進してまいります。学校の実態に合わせて先進的な取り組み事例を周知し、活用につなげてまいります。

項目番号 5 (13～14 頁) 生徒指導体制・教育相談体制の充実

《施策・事業に対する意見等》

●暴力行為やいじめについて、積極的に認知を行っていることによって認知件数が増加しており、先生方の努力の結果だと感じます。また、暴力行為やいじめをしてしまう児童生徒が問題と思われることの方が多いかもかもしれませんが、根本的にその児童生徒にも心に抱えているものがあるかもしれないので、それぞれの心に寄り添ったかわり方や何でも話せる関係づくりなどが大切だと考えています。これらは難しい問題ですが、学校でも組織的に対応されているので、今後、件数が減っていくことを期待しています。

⇒ささいなことからトラブルになり暴力行為に発展してしまうケースや、感情を抑えることが苦手で暴言や暴力・物に当たるなどのケースも見られました。暴力行為に対しては毅然とした組織的な対応を行いながらも、児童生徒理解をベースに、ソーシャルスキルを育て、温かい人間関係作りや自尊感情を育んでいく等の「発達支持的生徒指導」の考え方が必要であると考えます。学校の粘り強い指導とともに、外部機関との連携や専門家の配置等、委員会としての支援も引き続き行ってまいります。

項目番号 7 (15～16 頁) 体力向上の取組の推進

◇スキップロープチャレンジの参加数に参加校数を加えてはどうか。

⇒参加校数を記載いたします。

◇6. 評価の中に、1 週間の総運動時間が 60 分未満の児童生徒の体力合計点の平均データを入れることの意図が見えにくいため、方向性の整理をお願いしたい。

⇒児童生徒の体力課題に対して有効な指導方法や発達段階に応じた指導方法を専門家から学び、指導に活かしていきながら、運動機会の少ない児童生徒の運動時間を増やせるよう取組みを推進し、点検評価の指標としてお示しできる内容を研究してまいります。なお、表は削除いたします。

○学校教育部 人権教育課○

項目番号 2 (17～18 頁) 支援体制の充実

特になし

項目番号 4 (19～20 頁) 研修・啓発の充実

◇日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数の推移を表すことで、学校現場の苦労や事業費の増額がわかりやすいのではないかな。

⇒日本語指導が必要な児童生徒が年々増加しております。児童生徒数の推移を表すことで、児童生徒の状況や日々の生活言語や学習言語を支援する通訳や日本語指導支援員が大変重要な存在であるということが伝わりやすいものと考えます。

○生涯学習部 生涯学習課○

項目番号 11 (21～22 頁) 生涯学習基本方針の推進

◇生涯学習支援チームについて、どのように集められたのか、また構成メンバーの年代などが情報としてあるとフラッグシップ事業の目指す生涯学習がわかりやすいのではないかな。

⇒生涯学習支援チームの委員は、「岸和田市生涯学習支援チーム規約」にもとづきまして、①社会教育関係団体、②福祉・健康・人権関係団体、③産業・労働関係団体、④連合町会、⑤学校、⑥学識経験者、⑦社会教育関係職員、⑧市民・住民・ボランティア、⑨その他、支援チームが必要と認めたもの、で構成され、団体等から推薦をいただき、委員として委嘱しています。年齢については要件としておりませんので、把握していませんが、適任者のご推薦をいただいていると考えています。

項目番号 12 (23～24 頁) 学び舎プログラムの実施

特になし

○生涯学習部 スポーツ振興課○

項目番号 15 (25～26 頁) 部活動地域移行の推進

特になし

項目番号 16 (27～28 頁) スポーツ施設の適切な管理運営と計画的な再編整備

特になし

○生涯学習部 郷土文化課○

項目番号 17 (29～30 頁) 市内文化財を活用した普及行事の開催

特になし

項目番号 18 (31～32 頁) 屋内外における多彩な行事の開催

特になし

○生涯学習部 図書館○

項目番号 13 (33～34 頁) 子ども読書活動の推進

特になし

項目番号 14 (35～36 頁) 資料の収集・整理・保存、及び郷土資料の整理・データ化の推進

特になし